

米原市 非核・平和都市宣言

私たちのまち まいばら には
青い空と緑にはえる山々
清流のせせらぎ
みのり豊かな田園
母なるめぐみの湖(うみ)がある

まちかどや広場には
子どもたちの歓声が
若者たちの歌声が
軒先からは人々の
静かな語らいがきこえてくる

遠く海をこえた かなたにも
同じ人々のくらしと
しあわせがある

しかし 今
地球をおおう核の脅威は
あらゆる命のいとなみを破壊し
かけがえのない平和を
一瞬にして 奪いさろうとしている

私たちは 知っている
核兵器が
生きとし生けるもの
すべてを破滅しつくして
何も もたらさないことを

私たちは 知っている
すべての人間が手をつなぎ
平和な明日に向かって
力をよせあうことが
どんなに大切で
すばらしいかを

悲惨なヒロシマ ナガサキの体験から
核兵器を
「持たず 作らず 持ち込ませず」の
非核三原則を全世界に訴え
戦争の放棄 恒久の平和を誓った
平和憲法を
私たちは 守ります

人々の明日にとって
子どもたちの笑顔が
若者たちの明るい未来が
いきいきとした命のいとなみが
永遠に続くことを願っている

私たちは 訴えます
核を持つすべての国々に
すべての核兵器を 今 すてよ！と

この市民の声と 願いを
世界に広く訴えるため
ここに米原市は
「非核・平和都市」を宣言する

平成17年6月24日
米原市

平和への願いを込めて

終戦から81年が経過し、戦争を経験した世代が減少し、当時の体験を直接聞ける機会が失われてきている今、戦後を生きる私たちは、戦争の愚かさとしきりに悲しみ、核兵器の恐ろしさを改めて認識し、平和の大切さや尊さについて、次代を担う子どもたちへ継承していかなければなりません。

市では平成17年に「非核・平和都市宣言」を行い、核兵器の廃絶と世界の恒久平和を訴え、これからも子どもたちへ平和の尊さを提唱していきます。

問 市 総務課

5315168
5315148

市長
コラム

市政言

平和のバトンを次代の子どもたちへ

私たちの平穏な日常は、決して当たり前のものではありません。

令和6年に建立した「平和の礎」は、尊い犠牲を捧げられた方々を追悼するだけでなく、平和の大切さを学ぶ拠点でもあります。

この場所では、市内の小学生たちがご遺族の方から当時の体験を直接伺う「平和学習」を行っています。凄惨な戦争の記憶に触れ、当時の苦しみを知ることで、他者の心に想いを馳せる想像力と、平和を自らの課題として捉え、行動できる力を養ってほしいと願っています。

現在、目を世界に転じれば、今なお争いに苦しむ人々が絶えません。平和を守り続けるためには、私たち一人ひとりがその尊さを自分自身に問い直すことが重要であると感じています。

この穏やかな日常を、次代を担う子どもたち、そしてその先の世代へと守り伝えていくことは、今を生きる私たちの使命です。これからも市民の皆様とともに、争いのない未来へ歩みを進めてまいります。

米原市長 角田航也